

国立大学法人信州大学と国立高雄科技大学との地方創生交流体験

副室長 藤尾 宗太郎、室長 林 靖人

国立大学法人 信州大学

ユニバーシティ・エンゲージメント室

[概要]

今回の TJA ニュースでは、国立大学法人信州大学(以下、信州大学) ユニバーシティ・エンゲージメント室(以下 UE 室)が行った、国立高雄科技大学(以下、高雄科技大学)との地方創生交流体験について報告する。2024 年 8 月 22 日(木)-24 日(日)に、高雄科技大学は「信州における地域活性化の事例」を学ぶべく、長野県を訪れた。信州大学は高雄科技大学から 5 名の視察を受け入れた(李筱倩教授、Teaching Assistant1 名、学生 3 名)。

8 月 23 日(金)は高雄科技大学・信州大学の教員・学生と共に、長野県松本市内にて「松本市の価値」について考察するフィールドワーク・グループディスカッションを実施した。日台の学生が持つ視点から「松本市の価値」についてグループディスカッションを行い、まとめた内容を信州大学に訪れていた文部科学省関係者の前で発表した。高雄科技大学・信州大学の学生は、異文化とのコミュニケーションと合意形成を学ぶことが出来た。

8 月 24 日(土)は、信州大学が取り組む実践型リカレント学習プログラムを通じて地域活性化へ取り組んだ地域を訪問した。地域活性化の取り組みの中で生み出された郷土料理や、現地の人とのコミュニケーションを通じて、信州大学が行った地域活性化の取り組みを体験することができた。

TJA のプラットフォームを活用し、高雄科技大学と信州大学は「学生間の交流」「地域活性化事例の共有」「新しい関係構築」を実現することができた。今後も TJA のプラットフォームを活用し、双方にとり有益な情報交換と交流を続ける。

はじめに

長野県松本市の概要

松本市は、日本の本州及び長野県のほぼ中央に位置している。松本市は伝統的に教育を尊重する気風が強く、明治初年の開智学校の開校に始まり、大正期には松本高校が招致された。

日本アルプスを擁して多くのアルピニストを迎える『岳都』、まちかどにバイオリンの調べを聴く街、セイジ・オザワ 松本フェスティバルの街『楽

都』、古くから学問を尊び、学生を大事にする都、進取で議論好きの市民気質から『学都』。「『三ガク都』まつもと」～岳都・楽都・学都～と呼ばれている(出典：松本市 公式ホームページより)。

高雄科技大学と信州大学との交流

信州大学と高雄科技大学は、2018年に各校の情報交換会を行ったことをきっかけに交流を深め、国際学術交流協定 MoU を締結した。以降はGEC(Center for Global Education and Collaboration)、UE室を窓口としTJAのプラットフォームを通じて、「地方創生」「地域活性」「社会実践」「人材育成」などをテーマに交流を続けている。

1.松本市におけるフィールドワーク・グループディスカッション

2024年8月23日(金)、高雄科技大学5名と、信州大学が取り組む人材創出プログラム「ENGINE(文部科学省『大学による地方創生人材教育プログラム構築事業』)」に参加する学生信州大学5名(教員2名・学生3名)にて、松本市内でフィールドワークを実施した。フィールドワークでは初めに松本市立博物館を訪れ、松本市の歴史や文化について学んだ。

・ENGINE Web サイト・・・<https://engine-prgm.shinshu-u.ac.jp/>



松本市立博物館 見学の風景

松本市立博物館は1906（明治39）年9月21日に開館し、100年以上の歴史を誇る博物館である。時代とともに名称や所在地の変更を繰り返し、2023（令和5）年10月、「松本まるごと博物館」の基幹施設として現在地に移転新築し開館した。重要文化財「孔雀文磬（くじゃくもんけい）」や「七夕人形」、「民間信仰資料」、「農耕用具」コレクションといった3件の国重要有形民俗文化財をはじめ、約11万点を超える貴重な資料を収蔵している（出典：松本市立博物館 公式ホームページより）。

・松本市立博物館 Web サイト・・・<https://matsumoto-city-museum.jp/>

松本市立博物館を訪問した後、学生たちは日台混成グループを作り、松本市内でフィールドワークを行った。フィールドワークを行うにあたり、信州大学の学生から高雄科技大学の学生に対して「松本市の価値」をメモするように伝えた。学生たちはフィールドワークの中で、国宝 松本城や四柱神社、雄大な山と美しい河川など豊かな自然に囲まれた街並みを視察した。また観光名所や商店街では、現地の人とのコミュニケーションを行った。



松本市内 フィールドワークの風景

松本市内でのフィールドワークを終えた後、学生たちは信州大学 松本キャンパスへ移動した。松本市内のフィールドワークを通じて感じた、台湾と日本の視点から見た「松本市の価値」について意見を交換した。台湾の学生はゴミが少ない松本市の美しい街並みや、道と河川の間に設けられたガードレールにより安全への配慮と自然との触れ合いが両立した街の設計に感銘を受けた。

また日本の学生はフィールドワークを通じて松本市が持つ文化的な魅力を再認識した。



信州大学松本キャンパス グループディスカッションの風景

グループディスカッションを終え、学生たちはワークの成果を発表した。当日は文部科学省の担当者が信州大学を訪れており、学生たちは信州大学の教員を含め多様な人たちの前でプレゼンテーションを行う機会を得ることができた。発表は日本語と英語で行われ、信州大学の国際部による通訳のサポートを受けた。

学生たちは異文化コミュニケーションを通じて多角的な視点から街の価値について考察し、また異なる価値観をまとめて合意形成をする経験をすることができた。



学生による成果発表の風景

2.信州 100 年企業創出プログラムで地域活性化へ取り組んだ現場のフィールドワーク

2024 年 8 月 24 日(土)、信州大学が取り組む実践型リカレント学習プログラム「信州 100 年企業創出プログラム」で地域活性化へ取り組んだ現場を訪問した。最初に「道の駅中条」を訪問した。道の駅中条を活性化するために 2022 年に指定管理業者である株式会社 BJ はプログラムへ参加した。プログラムを通じて地域の郷土料理である「おぶっこ(OBUKKO)」を製品化し、現在では道の駅中条における食堂の人気No.1 メニューとなり多くの観光客に親しまれている。高雄科技大学の 5 名は「おぶっこ(OBUKKO)」を試食し、施設管理者との意見交換を行った。道の駅中条が地域の活性化へ貢献していることと信州大学の取り組みが道の駅中条の活性化へ貢献したことを体験した。

・ 信州 100 年企業創出プログラム Web サイト・・・<https://shinshu-100y.shinshu-u.ac.jp/>

・ 道の駅中条 Web サイト・・・<https://michinoekinakajo.eternal-story.com/>



道の駅中条 フィールドワークの風景

最後に訪問した生坂村では、信州 100 年企業創出プログラムに参加した人材が「いくさか『創造の森』プロジェクト」と名付けた地域活性化の取り組みを進めており、当日は地域活性化プロジェクトのオープニングセレモニーに参加した。生坂村は令和 4 年 6 月 26 日に「生坂ゼロカーボンシティ宣言」を行い、令和 5 年 4 月 28 日に環境省 脱炭素先行地域に採択されている。現在は「オフグリッドハウス」に注力をしており、環境に配慮したライフスタイルを実践できる先進的な地域として活性化を推進していく計画である。セレモニー終了後に、人材と意見交換を行い、地域活性化に関する有益な知見を得ることができた。



生坂村 フィールドワークの風景

・ いくさか『創造の森』 Web サイト・・・<https://tabisuruikimono.com/>

今回、信州大学と高雄科技大学は学生間の交流・地域活性化事例の共有・新しい関係構築を行うことができた。今後も TJA のプラットフォームを活用し、地方創生を推進し、情報の共有と発信を続ける。